

【案】

瑞浪駅北地区複合公共施設 基本計画

—「市民や東濃地域のサードプレイス」の実現に向けて—

令和6年〇月

瑞浪市シティプロジェクト推進課・生涯学習課

目次

1. 事業の背景	1
1－1. これまでの経緯.....	1
1－2. 事業計画地について	2
2. 新しい施設の目指す姿・コンセプト.....	3
2－1. 市民ニーズについて	3
2－2. 目指す施設の姿・コンセプト.....	4
3. 運営方針.....	7
3－1. 運営の基本的な考え方.....	7
3－2. 資料・情報提供機能 運営方針.....	8
3－3. 集会・交流機能 運営方針	10
3－4. 滞在・サロン機能 運営方針.....	11
3－5. 融合の仕組み 運営方針.....	12
3－6. 開館日数・開館時間	13
4. 施設整備方針.....	13
4－1. 施設整備の基本的な考え方	13
4－2. 資料・情報提供機能 施設整備方針	14
4－3. 集会・交流機能 施設整備方針.....	14
4－4. 滞在・サロン機能 施設整備方針	15
4－5. 融合の仕組み 施設整備方針.....	16
4－6. 機能の配置及びゾーニングの考え方	18
5. 整備運営手法及びスケジュール	19
5－1. 官民連携の必要性	19
5－2. 整備運営手法.....	20
5－3. 事業費・スケジュール.....	21

1. 事業の背景

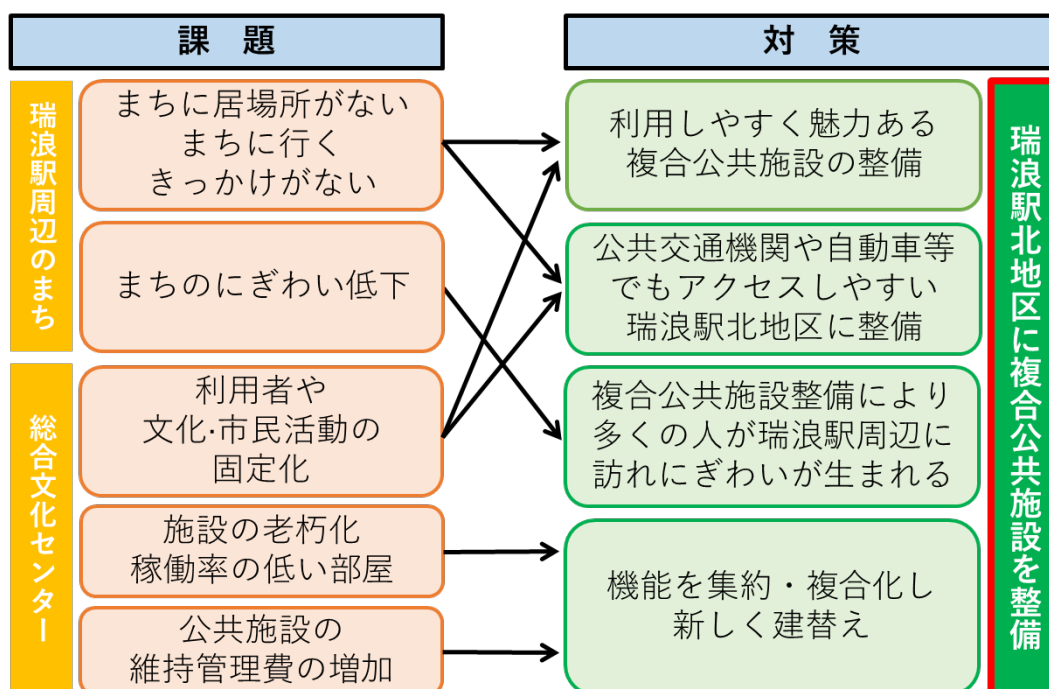
1-1. これまでの経緯

これまでに策定してきた「瑞浪駅周辺まちづくり基本方針」「瑞浪市公共施設等総合管理計画」においては、瑞浪駅周辺のまちの課題と、総合文化センター（中央公民館・市民図書館を併せた総称。以下同様。）の課題の両方を同時に解決するため、瑞浪駅北地区に、図書館や貸室等の中央公民館機能の一部を集約し、新たな機能を追加した複合公共施設を整備することとしています。

『未来の子どもたちに渡せるまち』を目指す瑞浪駅周辺には「まちに訪れる目的や滞在する場所がない」「商店街を含めたまちのにぎわいが失われつつある」といった課題があります。また、総合文化センターには「生涯学習推進と文化芸術振興のために、固定化している利用者を増やしたい」「中央公民館と市民図書館が共に築40年以上経ち老朽化している」「稼働率の低い部屋」

「将来的な公共施設維持管理費の増加への対策として『瑞浪市公共施設等総合管理計画』に基づく床面積の削減」といった課題があります。これらの課題解決のため、瑞浪駅北地区に、魅力があり、効率的に運営できる複合公共施設を整備することとします。

■「瑞浪駅周辺まちづくり基本方針」「瑞浪市公共施設等総合管理計画」における駅北地区複合公共施設整備の考え方イメージ



この基本計画では、新たな複合公共施設を、利用しやすく魅力ある施設とするために、施設の目指す姿・コンセプト、運営方針、施設整備方針等をまとめます。

1-2. 事業計画地について

複合公共施設を建設する場所は、瑞浪駅のすぐ北側です。瑞浪駅は、電車だけでなく、路線バス、コミュニティバスの発着点であり、多くの人にとってアクセスしやすい場所です。また、複合公共施設の整備と合わせ、市営駅北駐車場の拡張と、駅北ロータリーの改良を行い、自動車でもアクセスしやすくする計画です。さらに瑞浪駅構内から直接、駅北地区にアクセスできるよう、北口改札の新設に向け、JR東海と検討を行っています。

また、駅南地区については、市街地再開発事業において、住居や商業機能が入った再開発ビルや、歩きたくなるまちなみの整備、駅前広場の拡張を計画しています。

駅北地区の複合公共施設等の整備と、駅南地区の市街地再開発事業等の施策を併せて実施し、将来にわたり魅力あるエリアとすることで『未来の子どもたちに渡せるまち』の実現を目指します。

■事業計画地の航空写真



2. 新しい施設の目指す姿・コンセプト

2-1. 市民ニーズについて

これまで、各種アンケート、市長と語る会等の市民対話、Mビル等での社会実験の結果から、瑞浪駅周辺や駅北地区複合公共施設についての市民ニーズを確かめました。

- 『市民アンケート（平成30年～令和5年）』（回答数合計：2,638）
→主な設問「瑞浪駅周辺への居住意向」「瑞浪駅周辺施設に必要な機能」「図書館に欲しい機能」
- 『市長と語る会（平成27年～令和5年）（各地区及び高校生・大学生等）』
→関連意見「瑞浪駅周辺の活性化要望」「商業施設の導入」「瑞浪駅周辺の滞在空間」「瑞浪駅南北地区の連携」等
- 『瑞浪市社会教育委員会「生涯学習推進のための駅北複合施設のあり方について」答申（令和5年2月）』
→「集うための拠点」「瑞浪市ならではの特色」「駅周辺の整備及び交通手段の確保」等
- 『瑞浪市図書館協議会「駅北複合公共施設における瑞浪市民図書館のあり方に関する協議」中間報告（令和6年3月）』
→「開館時間」「駐車場関連」「市民図書館と関係機関のあり方」等
- 『フューチャーセッション in みずなみ（学生ワークショップ）（令和4年）』
→関連意見「空き店舗の解消」「学生が過ごせる場所」等
- 『まちづくりWEBアンケート（令和2年）』（回答数合計：584）
→主な設問「図書館に必要な機能について」「瑞浪駅周辺施設に必要な機能」
- 『社会実験（ゑびす屋、Mビル、Mキッチンカー等）（令和元年～）』
→実験目的「瑞浪駅周辺の市民ニーズ（施設機能や販売商品）調査」「フリースペース・コワーキングスペースのニーズ調査」

■市長と語る会（市内高校生（ミライ創ろまい課））の様子



これらの調査の中で、瑞浪駅周辺や新しい施設の機能やサービスへの期待として「居心地の良い、くつろげる空間」「カフェ・レストラン機能」「本の数、種類の充実」「閲覧席、学習席の増加」「開館時間、開館日数の拡大」「キッズスペースの充実」等がありました。

なお、今後施設の整備運営を実施していく過程でも、引き続き市民のニーズを把握していくこととします。

■社会実験の様子（ゑびす屋・Mビル・Mキッチンカー）



2-2. 目指す施設の姿・コンセプト

前述の市民ニーズ等も踏まえ、目指す施設の姿やコンセプトを定めました。

新しい施設は、ニーズの高い機能を取り入れ、まちに人が訪れるきっかけとなるような、利用しやすく魅力ある施設を目指します。また、多くの人が行き交う立地で、気軽に利用できる施設とすることで、生涯学習推進と文化芸術振興も図ります。新しい施設は、これらを実現するため以下の3つの機能を導入します。

（１）資料・情報提供機能

本・雑誌等の資料や情報の提供という図書館としての基本的な機能に加えて、「静かに集中できる場」「ゆったりとくつろげる場」「朗読や会話ができる場」等、多様な読書や学習スタイルが共存できるスペースを整備します。さらに、子どもたちが絵本等を楽しめるキッズスペースや、瑞浪の文化や歴史に触れることができる機能も整備します。

(2) 集会・交流機能

式典はもちろん、各種の講座・イベントの開催や、多様な市民活動の練習・発表ができる機能を整備します。平土間形式にもなる、可変性の高い多目的ホールを中心に、多用途に使えるスペースを提供します。

(3) 滞在・サロン機能

特別の目的がなくてもふらっと訪れたくなるような、居心地が良くくつろぐことのできる施設とします。開放的なオープンスペースや、使いやすいテーブルや椅子、カフェ機能等、多様な人々が自然に訪れて、出会い、会話や余暇を楽しむことができるようにします。

市民だけでなく周辺地域の人々も訪れたくなる施設を目指し、新しい施設のコンセプトは、「市民や東濃地域のサードプレイス（自宅、学校・職場以外の第3の居心地の良い居場所）」とします。

■施設コンセプト

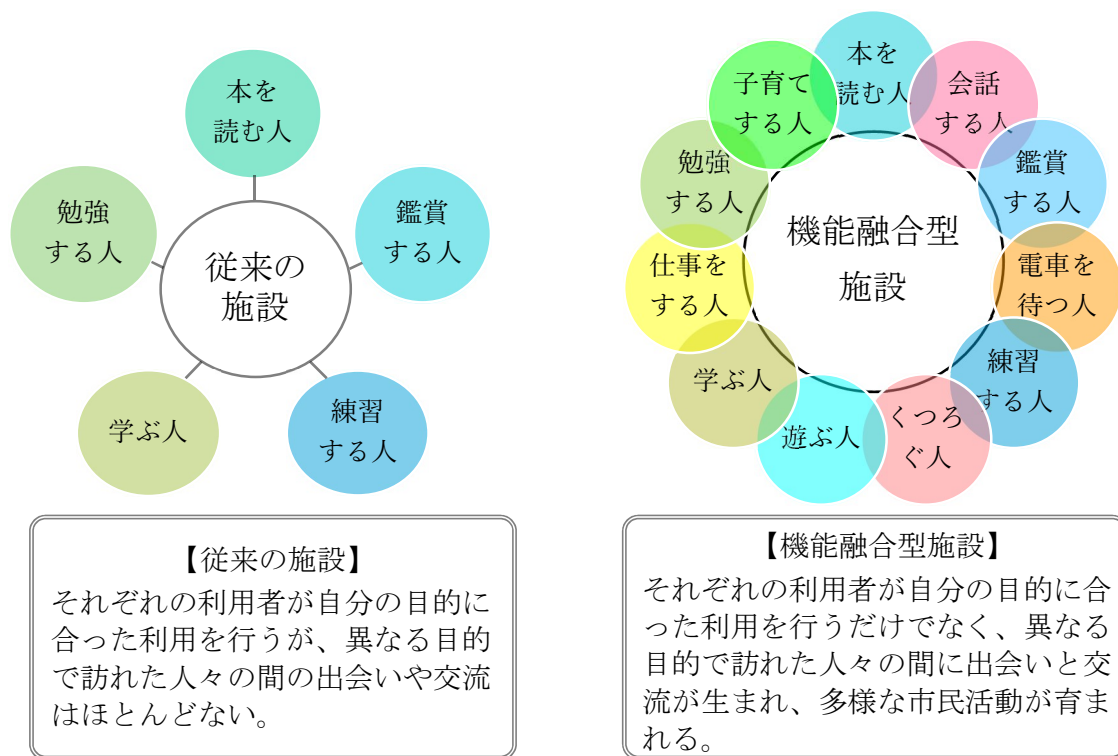
～ 市民や東濃地域のサードプレイス ～

さらに新しい施設を、ただ単に各機能が同じ建物に集約されているだけでなく、これらの機能が融合する「機能融合型施設」とすることで、それぞれの利用者が自分の目的に合った利用を行うだけでなく、異なる目的で訪れた人々の間に出会いと交流が生まれ、多様な市民活動が育まれます。また、瑞浪駅直近の施設立地を活かし、瑞浪市の内外から多くの人を訪れる施設とすることで、まちのにぎわいも創出します。

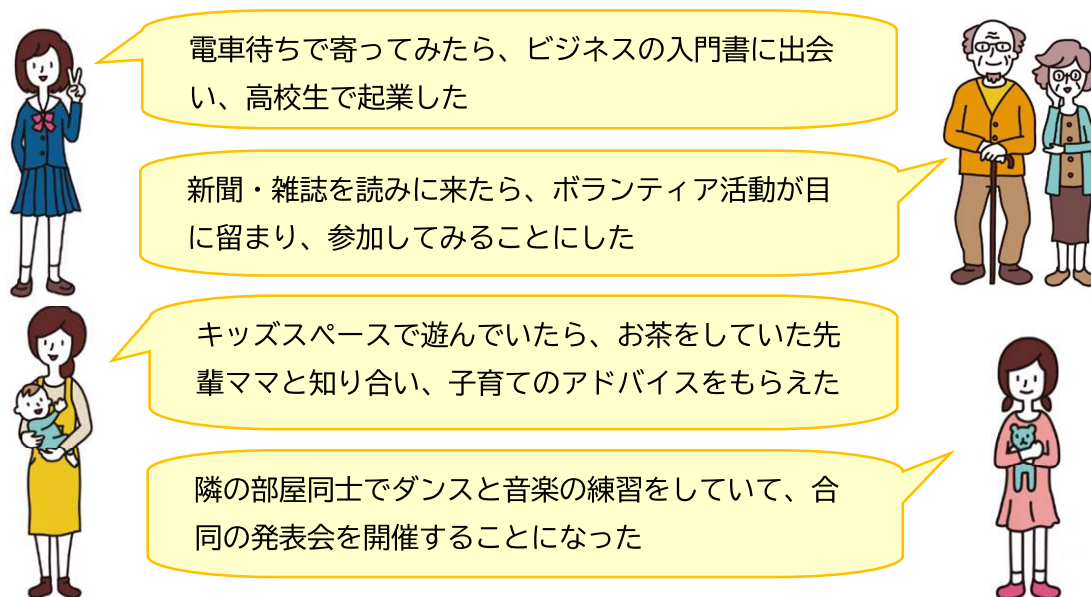
これまで、図書館は、主に「本を読む人」「勉強する人」に利用されてきました。また、中央公民館の貸室やホールは、「学ぶ人」「練習する人」「鑑賞する人」によく利用されてきました。新しい施設では、それらの人に加え、オープンスペースで「くつろぐ人」「会話する人」「電車を待つ人」、読書と学習のスペースで「仕事をする人」、キッズスペースで「遊ぶ人」「子育てする人」等も存在します。これまでの利用者にはより快適であることは当然ですが、

これまで利用してこなかった人にとっても、快適で利用したくなる施設となることを目指します。

■施設利用者のイメージ（従来施設との比較）



■「機能融合型施設」での新たな出会いのイメージ





お茶を飲みに来たら、オープンスペースで陶芸のワークショップをしており、新しい趣味が見つかった

仕事で駅に訪れ、化石の展示を見て、次の休みに子どもと野外学習地で遊んだ



3. 運営方針

3-1. 運営の基本的な考え方

図書館、貸室等の基本的な機能の運営だけでなく、多様な機能が一体となった機能融合型施設を実現することで、生涯学習や文化活動だけでない多様な市民活動の活性化を促し、人と人のつながりや新たな交流を生み出すことが可能となります。しかし、目的にかなった運営が行われなければ、施設はその機能を十分発揮することができません。

そこで、施設の目指す姿やコンセプトを実現するために、どのような運営を行うかを機能別に整理し、さらに機能を融合させるさまざまな工夫については「融合の仕組み運営方針」として整理します。なお、開館日数・開館時間については、その重要性から個別項目にて整理します。

すべての機能に共通する、運営の基本的な考え方は次のとおりです。

- I. より多くの市民や周辺地域の住民が気軽に訪れて、文化芸術・生涯学習・まちづくりを含む多様な市民活動に触れ、参加できる機会を創出する。
- II. オープンな空間を活用した活動内容の見える化、共用空間も含めた施設の有効活用（空間の重ね使い）を図り、多様な市民活動同士の相乗効果を促進させる。
- III. 施設内に留まらず、駅周辺や瑞浪市の活性化に波及する活動を展開し、にぎわいの創出、コミュニティの形成等、まちの活性化に繋がる活動を促す。

3-2. 資料・情報提供機能 運営方針

図書館の主な資料・情報提供機能である、資料の閲覧・貸出や、レファレンスサービスといった基本的サービスについては、向上を図りながら提供を行います。同時に、これまで公共施設の利用が少なかった、中学生・高校生、働く世代・子育て世代が楽しめる空間を創出し、幅広い利用者と利用のスタイルが共存できるようなサービスを提供します。

①ターゲット別サービスの提供

ア) 子どもや子育て世代へのサービス

- ・読書や読み聞かせだけでなく、子どもが気兼ねなく声を上げ、楽しむことができ、保護者が近くで見守れる空間を提供します。
- ・本や視聴覚資料だけでなく、知育玩具、友達同士や家族で楽しめるゲームや、子育て支援関係機関と連携したコーナーの設置を検討します。

イ) ティーンズ世代（中学生・高校生等）へのサービス

- ・個人でもグループでも、読書や学習、雑談や休憩等ができるよう、ゆるやかなゾーニングで、それぞれが共存できる空間とします。
- ・将来に向けた進路の選択や自分磨きに役立つ図書、興味関心を広げるきっかけとなる情報等を、特集棚に加え、SNS、デジタルサイネージ（電子掲示板）等の情報コミュニケーション技術を活用して提供します。
- ・ティーンズ自身の意欲と発想を活かした活動や発信をサポートするワークショップ等の導入を検討します。

ウ) 働く世代へのサービス

- ・暮らし方、働き方、新たな学び、創作・表現活動等、幅広く役立つ図書や情報を提供します。また、これらのテーマに関連し、共通の関心をもつ人同士の出会いにつながる企画を実施します。
- ・コワーキングスペースのように仕事や打合せができると同時に、ビジネスのための情報収集もサポートします。

- ・気軽に立ち寄り気分転換ができる空間、新たな趣味や興味と出会えるコンテンツを提供します。

エ) シニア世代や障がいのある人へのサービス

- ・アクティブなシニアや障がいのある人が、多様な市民活動を積極的に行ったり、施設運営ボランティアに参加したりできるような工夫をします。
- ・新聞や雑誌のタブレット化による文字の拡大、大活字図書・録音図書・点字図書の提供等、誰でも気持ちよく利用できるための工夫をします。

②蔵書・資料の管理・提供

ア) 図書・新聞・雑誌資料

- ・現状の19万冊よりも絞り込んだ規模の蔵書とする方向で、本施設に必要な蔵書構成を見極め、最終的な蔵書点数を設定します。電子書籍等のデジタルコンテンツの提供も検討し、紙の資料については蔵書内容を精査します。
- ・新聞・雑誌については、バックナンバーの使いやすさ・バリアフリーへの対応等、紙だけでなく電子書籍等の導入について、多角的に検討します。
- ・日頃、読書になじみがなくても思わず手にとりたくなる、魅力的な資料を収集した特集棚をはじめ、館内のすべての書架で、わかりやすく、興味が沸く展示を行います。
- ・グローバル化が進む時代だからこそ、地域や日本の文化を伝える役割も積極的に担うことができる選書をします。とりわけ地域に関する資料には、入手しにくい貴重なものが多いので、保存しつつ、活用に努めます。
- ・日本を代表する出版文化である漫画についても系統的に収集し、施設の利用のきっかけとなることも期待します。
- ・蔵書だけでなく、インターネット上の資料の紹介、他の図書館等の情報提供を行えるよう、レファレンスサービスの強化と利用促進に努めます。
- ・市内の学校をはじめとする団体への資料提供や、レファレンスサービス等、関係機関との連携を図ります。

イ) 視聴覚資料・電子資料・利用しやすい資料

- ・視聴覚資料については、動画による学習や娯楽の普及、インターネットによる多様化といった状況を考慮しながら、市民ニーズや導入目的に合った貸出・閲覧等のサービスを提供します。
- ・地域の文化的・知的な資源を把握し、電子化を含めた記録・公開していくアーカイブの構築については、図書館だけでなく博物館を含む全市的な取り組みの体制を検討します。
- ・大活字本、録音図書、点字図書等については、読書バリアフリーの最新動向を参考に、読書や情報をめぐる格差の解消に努めます。

③サービスの自動化

- ・ICT サービス、自動検索・貸出・返却システムの導入を検討します。スタッフと利用者が対面で行うことが効果的なサービスと、対面でなくてもよいサービスのバランスの最適化を目指します。これにより、サービスの向上と業務の効率化の両立を図ります。スタッフの手を介さない手続きの導入は、感染症対策にもつながります。

④図書館分室の運営と学校図書館等への運営支援

- ・現図書館が実施している図書館分室の運営や、学校図書館等の運営支援については、新しい施設においても、引き続き、図書館サービスに欠かせない業務として、充実を図ります。

3-3. 集会・交流機能 運営方針

集会・交流機能の核となるのは、多目的ホール、貸室及びオープンスペースです。他の機能と連携・融合して、これまで公共施設を利用してこなかった市民や周辺地域住民の利用も促し、新たなコミュニティ創出や、多様な市民活動の拠点となることを目指します。大きなホールが必要だったり、本施設の貸室が不足したりする場合は、他の既存施設を利用できるようにする等、活動の継続を支援する方策を検討します。

①多目的ホール・貸室等の運営

- ・発表会、セミナー、ワークショップ、プレゼンテーション等、市民を中心に団体や個人の多様な活動の場を提供します。活動内容の質的向上や集客への支援も検討します。
- ・多目的ホールを設置し、防音等必要な機能を備え、「二十歳の祝典」等の式典も行える空間とします。
- ・多目的ホール以外で、集会・交流機能を担う貸室は、様々な市民活動が他の来館者の目に留まるような空間を基本とします。
- ・通路・階段等のオープンスペースも、安全かつ快適に集会・交流機能の一部を担えるようにし、他の利用者に刺激を与え、新たな活動を始めたり、活動の質を向上させるきっかけとなるように工夫します。
- ・使用料は有料とし、施設の規模等に応じた料金設定を検討します。

②生涯学習推進や文化芸術振興のためのイベント・展示等の企画運営

- ・市民がさまざまな学びや文化芸術活動に触れ、参加する機会をつくるため、幅広いニーズに対応したセミナー等のイベントを企画運営します。
- ・瑞浪市の地域文化や歴史を知ることができるセミナーや展示を企画運営し、シティプロモーションを行います。
- ・気軽に立ち寄ったついでに、参加できるような企画で、魅力ある人や場所、催しを紹介し、シビックプライドを醸成します。

3-4. 滞在・サロン機能 運営方針

特定の目的をもって来館する人も、ふらっと訪れる人も、多くの人にとって居心地よく感じられる場。快適に滞在でき、出会いがあり、会話が弾むサロンのような場。駅周辺ににぎわいを取り戻し、新しいコミュニティの形成につながるには、そのような場づくりの工夫が必要です。

①居心地の良い空間づくり

多くの人にとって居心地の良い空間とするため、様々な空間づくりと、それらが共存できる運営を行います。思い思いに過ごし、快適に滞在できるよう、什器のデザインや配置、適度な BGM 等について工夫します。

②カフェ機能

カフェは現代の都市生活において、「サードプレイス」としての重要な役割を果たしています。自宅や学校・職場以外での憩いの場として、人々が交流したり、リラックスしたりできる空間を提供しています。近年は図書館等の公共施設においても、本格的なカフェを設置することで、サードプレイスとしての機能を強化する事例が増えています。

本施設においても、滞在・サロン機能の中核として、カフェのような仕掛けを整え、また、小規模な物販等についても検討します。

3-5. 融合の仕組み 運営方針

①施設全体のマーケティングと各種情報の発信

- ・本施設の諸機能が、必要としている人々に認知され、利用されると同時に、その利用状況や意見が施設運営に反映され、運営の改善と新たなサービスの開発につながるような「マーケティング」の仕組みをつくります。この仕組みによって、新規の利用者を開拓すると同時に、本施設のファンを広げます。
- ・図書館・多目的ホール・貸室・カフェ等の新たな使い方を浸透させ、ニーズを把握しつつ、そのニーズにしっかり応えていく工夫をします。
- ・本施設の掲示及び関連の情報提供は、一貫性のあるクオリティの高いデザインを採用し、わかりやすく見やすい表示を行います。
- ・瑞浪市や東濃地域の魅力や市民活動について伝える情報、行政サービスに関する情報等は、本施設に直接かわりなくとも、本施設からの情報発信の一環として発信します。特に、瑞浪市の観光や特産品については、情報発信や展示を行う他、チケット販売・物販も検討します。

②市民によるまちづくり活動への協力

- ・瑞浪市主催及び市民主体によるまちづくり活動について、本施設でポスター掲示やインターネットによる発信を行い、活動のPRにつなげます。特に駅南地区のまちづくり関係者と協力・連携し、駅周辺のにぎわいづくりとまちの活性化につなげます。
- ・本施設及びその周辺で、まちの活性化につながる事業を企画運営します。

③施設運営ボランティアの育成と、自主活動や協働がしやすい仕組みづくり及び運営

- ・図書館ボランティアのみならず、施設全体の活動を対象とした施設運営ボランティアを募集し、活動内容の拡大も図ります。この施設のボランティア活動に携わることが市民の誇りと感じられるような工夫を検討します。
- ・ボランティアの自主的な創意工夫が活かしやすく、かつ、運営組織とボランティア組織が共通の目標に向かって協力し合える仕組みをつくります。

3-6. 開館日数・開館時間

多くの方がより便利に利用できるよう、365日利用可能な施設を目指しますが、コストと効果のバランスを考慮した柔軟な工夫が必要です。全面的な開館だけでなく、一部の機能（返却ポスト、予約資料貸出ロッカー等）が終日使える工夫等についても検討します。

4. 施設整備方針

4-1. 施設整備の基本的な考え方

既存施設の集約のため、類似する機能の統合、異なる機能の融合、稼働率の低い施設の再編等により、全体の床面積は減少させますが、必要な機能は維持し、できる限り充実させることとします。

基本的な機能を満たした上で、異なる機能がゆるやかにつながり、相乗効果を生み出す施設・機能配置とします。

また、今後の社会情勢の変化や技術革新により、施設内の諸機能の最適なレイアウト等が変化していく可能性があるため、それらの変化に対応可能な施設とします。

4-2. 資料・情報提供機能 施設整備方針

- ・ 図書館としての基本的機能を中心に、資料・情報提供機能のための施設・設備を整備します。
- ・ 一般開架コーナー：見通しがよく、すっきりとした統一感があるデザインで使いやすい書架が並び、その合間に座り心地よく魅力的な読書席が見え隠れする空間とします。
- ・ キッズスペース・児童開架コーナー：子育て世代が子どもたちと一緒に、安心して、読み聞かせをしたり、遊んだり、会話をしたりしながら、のびのびとくつろぐことができる居場所とします。
- ・ ティーンズコーナー：中学生・高校生を中心とした十代の利用者に、自分たちの居場所として認知され、愛用されるよう工夫します。
- ・ サイレントスペース：施設全体は会話ができる空間とする一方で、著者や自分自身と心の中で静かに対話したり、調べ物や学びに集中したりできる、静かな空間を設けます。
- ・ サービスデスク：来館した利用者が対面でサービスを受けることができる、メインのサービスデスクを設けます。
- ・ 閉架書庫：地域に関する資料を中心とした重要な資料を保存しつつ、限られたスペースを十分に確保するため、閉架書庫を設けます。

4-3. 集会・交流機能 施設整備方針

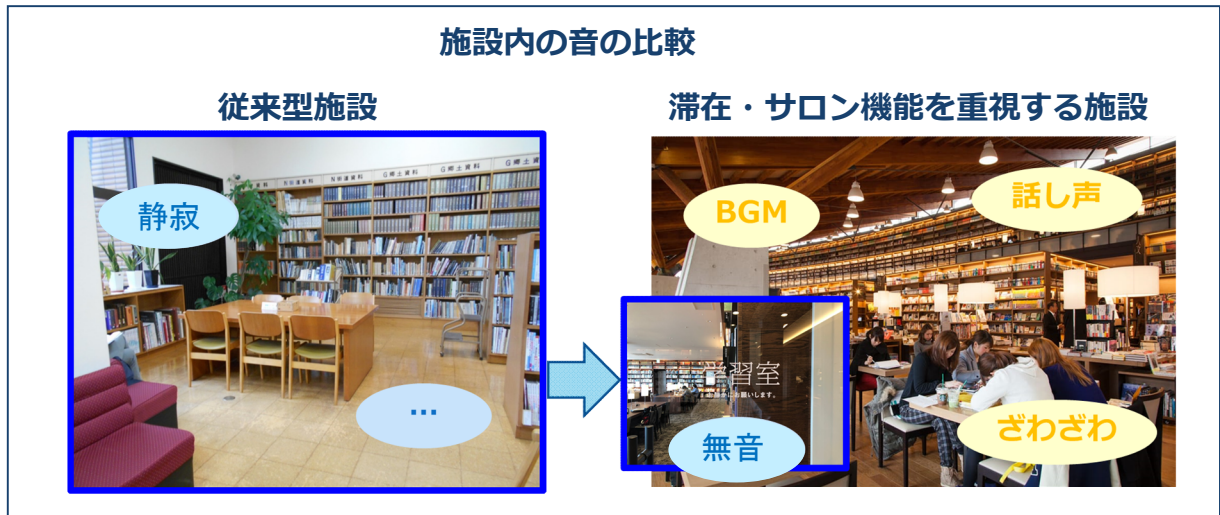
- ・ 多目的ホール・貸室を中心に、集会・交流機能のための施設・設備を整備します。

- ・ 多様な市民活動が、お互いの目に留まり、刺激し合うことによって発展し、交流が生まれる場となるようにします。
- ・ 可動式間仕切り等を活用し、柔軟で効率的な利用が可能となるつくりとします。
- ・ 多目的ホール：300～400人程度を収容可能とします。客席は可動式とし、平土間形式にも対応する等、空間の多様な利用を可能とします。客席は、これまでの利用実態や維持管理費用を考慮した最適な席数とします。舞台装置や詳細な機能は、市内外の施設を相互利用することを前提に、これまでの利用実態や今後の利用計画から、導入費用・維持管理費用も考慮し決定します。
- ・ 貸室：会議室・多目的ルーム（音、振動に配慮した部屋）として、5部屋程度整備します。多様な市民活動に活用することが可能な貸室とします。詳細な機能は、多目的ホールと同様、これまでの利用実態や今後の利用計画から、導入費用・維持管理費用を考慮し決定します。
- ・ 展示機能：化石博物館や陶磁資料館、市之瀬廣太記念美術館の収蔵品をはじめ、瑞浪市にまつわるモノやコトを展示・紹介できるような工夫をします。来館者が瑞浪市の魅力を再発見できるようなディスプレイを行い、市内の他施設等への誘客の役割も果たします。関連する書架の近くに展示ができるような工夫や、映像と実物展示の組み合わせについても検討します。

4-4. 滞在・サロン機能 施設整備方針

- ・ BGM や友人との会話、子どもの喜ぶ声が聞こえてくる空間を目指します。
- ・ 資料情報提供機能と連動しながら、グループでの学習、仕事の相談、余暇の読書等を楽しめる空間を創出します。
- ・ カフェ機能も整備し、人々がゆったりと滞在できるサロンの機能を提供します。
- ・ 快適な座席配置や、利用者用の Wi-Fi・電源等の環境を整え、飲み物・軽食・スイーツ等も提供することで、訪れる人々が快適に時間を過ごせるようにします。館全体の飲食ルールは今後検討します。

- ・ 施設全体が一体となったデザインとすることで、居心地の良い魅力ある施設とします。



4-5. 融合の仕組み 施設整備方針

①諸機能の相乗効果を生む

- ・ 市民活動、生涯学習を促進する拠点として、サービスを提供するだけでなく、市民活動に市民が自然と触れ、参加できる工夫が必要です。施設内の空間も、「活動が見える」「活動が聞こえてくる」といったように、市民活動を五感で感じ取れるよう、オープンな空間構成を実現していきます。
- ・ まちづくりの拠点施設として、多様な市民活動が施設とまちなかを行ったり来たりしながら、継続・展開していくことを重視し、本施設とまちを繋げるための機能配置を行います。

②建物のデザイン

- ・ 公共施設を利用したことの少ない市民や周辺地域住民にも「訪れてみたい」「もう一度行きたい」「友達を誘いたい」「待ち合わせに使いたい」と思われる施設となるよう、建物外部のデザインも重視します。
- ・ 本施設の外観は、日中は開放的に外からも施設内の活動が見え、夜間は安全で安心な場所・目印となる明るい高質なデザインとします。

- ・本施設周辺デザインは、施設と調和したランドスケープデザインで、来館者の施設への期待感を高めるものとします。
- ・歩行者のメインアプローチである既存の南北地下自由通路、車で利用するロータリーと駐車場、また駐車場から施設までの徒歩動線は、高質な機能デザインとし、かつ建物との一体感を創出します。
- ・建物内部からの景観も工夫します。周りの山々やまちなみ、電車の風景等、施設の立地を活かした景観とします。

③建物周辺の整備

- ・多世代の共存・にぎわいをつくれるスペースを設置し、市民が集い憩える場、企画等が開催できる空間を創出します。
- ・屋外空間に日常使いを重視したテーブル・ベンチや緑を設置、多様な世代が憩える空間、さらに子どもの遊び場ともなるような空間を提供します。
- ・日常使いと非日常の企画イベント、市民活動の場としても利用できるよう、施設内と同様ユニバーサルデザインを採用します。

④ユニバーサルデザインの採用

ユニバーサルデザインを採用し、すべての人にとって利用しやすく、安全で快適な環境を提供します。

- ・移動しやすい動線と出入口
- ・使いやすく安全な家具と設備
- ・わかりやすいサインと案内
- ・障がいのある人の利用に必要な設備・機器等の充実

⑤駐車場、駐輪場の利用

- ・自動車での施設利用者については、隣接する市営駐車場を利用できる仕組みを取り入れます。
- ・自転車での施設利用については、施設に駐輪場を併設します。

- ・駐車場から施設への動線については、安全で快適に移動できるものとし
ます。

⑥災害対策

本施設は、災害時に利用者及び地域住民等の安全と安心を確保するための対策を講じます。具体的な内容については、今後の設計段階において、防災部局と連携し、施設計画とともに検討していくこととします。

⑦地球温暖化対策

カーボンニュートラルを目指し、温室効果ガス排出量削減のため、施設の整備運営において以下の地球温暖化対策を行います。

- ・ライフサイクルコストを考慮した環境配慮材料等の選定
- ・日常的な省エネへの積極的取り組み
- ・CO2削減のための新たな取り組みへの対応
- ・再生可能エネルギーの導入

4-6. 機能の配置及びゾーニングの考え方

①瑞浪駅北地区複合公共施設の規模

床面積は、約3,000～3,500㎡を想定します。

②機能配置

機能	内容
資料・情報提供機能	・開架書棚・閉架書庫 ・サイレントスペース ・キッズスペース 児童開架図書 ・ティーンズコーナー ・サービスデスク

集会・交流機能	・多目的ホール ・貸室（音・振動に配慮した部屋：5部屋程度） ・生涯学習の受付 講座の予約等 ・市民活動支援
滞在・サロン機能	・市内情報提供 ・オープンラウンジ ・カフェ、物販 ・憩いを促す広場空間と屋外備品、緑化等
共有機能	・事務所 搬入庫、物品整理等 ・駐車場及び南北地下通路出入口から施設までの動線 ・駐輪場

5. 整備運営手法及びスケジュール

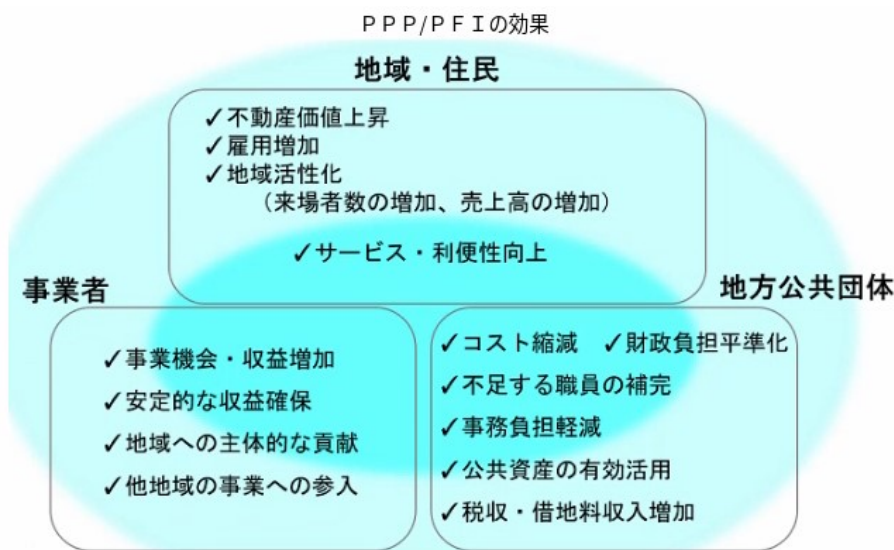
5-1. 官民連携の必要性

行政課題や地域課題が多様化するなか、限られた財源で、より効率的に質の高い市民サービスを提供していく必要があります。そのために、公共施設の設計建設、維持管理、運営等を行政と民間企業が連携（PPP/PFI※）して行うことで、民間企業の創意工夫等を活用し、行政課題や地域課題を解決することが期待されています。

※PPP(PublicPrivatePartnership)：公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るもの。

※PFI(PrivateFinanceInitiative)：PFI法に基づき、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。PPPの一部。

■ PPP／PFI の効果 （国土交通省HPより）



現在の市民図書館は、官民連携（PPP/PFI）手法の一つである指定管理者制度により、効率的な運営がされています。しかし、これまで参考にした他の施設においては、より民間企業の創意工夫が発揮できる官民連携の整備運営手法を採用することで、より利用者満足度の高い運営がされているところが多くありました。また、通常の施設運営だけにとどまらず、民間企業ならではの取組や企画がされている事例もあり、利用者のさらなる満足度の向上や、まちのにぎわいづくりにつながっていました。

瑞浪駅北地区複合公共施設においても、民間企業の創意工夫、利用者ニーズへのスピーディーな対応等による、魅力ある施設運営を目指し、官民連携手法による整備運営を行うこととします。またこれにより、行政業務の効率化も図ります。

5-2. 整備運営手法

より魅力ある施設とするためには、利用者が快適に利用でき、満足できるサービスを受けることができる必要があります。そのためには施設の運営に重点を置く必要があります。

このことから駅北地区複合公共施設においては、利用者と瑞浪市にとって最もメリットのある「運営重視型」の整備運営手法を採用することとします。

この手法により、最も魅力ある運営等を行える事業者を選定し、設計の段階から運営を想定した意見を取り入れることで、より良いサービスを提供する上で必要な、設備や機能、デザインを反映した施設整備を行うことが可能となります。

なお、官民連携手法により、民間企業による公共サービスの提供を行います。市は常に運営状況等をモニタリングし、管理指導を行っていきます。その目的は、あくまでも民間企業の資金や経営のスキル、技術力を最大限に活用し、公共サービスの質を向上させることにあります。官民が連携し、より効率的で効果的な、魅力ある公共サービスが提供され、市民にとっての利益が最大化される整備運営手法を採用します。

5-3. 事業費・スケジュール

①事業費

駅北複合公共施設 想定事業費 約 48.2 億円	内訳	調査設計計画費	約 3.6 億円
		土地整備費	約 0.3 億円
		用地補償費	約 5.5 億円
		施設工事事業費	約 32.8 億円
		付帯工事費等	約 4.2 億円
		開館準備費等	約 1.8 億円

(参考) 駅北複合公共施設以外の駅北地区事業想定事業費	
駅北駐車場拡張	約 7.4 億円
駅北ロータリー線等改良（地下自由通路含む）	約 10.4 億円
瑞浪駅北口改札新設	約 7.1 億円

想定事業費は現時点での概算であり、今後の検討過程でさらなる精査を行い、決定していきます。なお事業実施においては、財政負担軽減のため、国の補助事業等を最大限活用します。

また、供用後の維持管理運営費用については、現在の総合文化センターの管理運営経費と、新たな機能や運営方法に必要な経費等を踏まえ、適正な価格を算出します。

②スケジュール

令和 6～7 年度	事業者公募・施設の設計
令和 8～9 年度	施設整備工事
令和 10 年度～	施設開業・運営開始

事業費・スケジュールについては、今後の社会情勢の変化等により変更になる可能性があります。

— 以上 —